



2022年5月18日

各 位

会 社 名 ホリイフードサービス株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤田 明久
(コード番号 3077)
問合せ先 取締役経営管理本部長 大貫 春樹
電 話 (029) 233-5825

特別利益及び特別損失の計上、並びに2022年3月期業績と前期実績の差異に関するお知らせ

2022年3月期において計上しました特別利益及び特別損失の概要をお知らせすると共に、当期業績と前期実績の差異を下記によりお知らせいたします。

記

1. 特別利益の発生及びその内容

(1) 新型コロナウイルス感染症対策助成金等

当第4四半期会計期間において、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国及び地方公共団体からの要請に従い、店舗休業及び時間短縮営業を実施してまいりました。それらに対し交付された助成金等150,215千円を「補助金収入」として営業外収益に計上いたしました。

その結果、当事業年度において828,107千円を計上いたしました。

(2) 雇用調整助成金

当社は、上記(1)の状況のなか、店舗休業に際し支給しました休業手当に対する補助金として雇用調整助成金の受給申請を行い、当第4四半期会計期間に申請が完了しました61,020千円を「雇用調整助成金」として特別利益に計上いたしました。

その結果、当事業年度において254,079千円を計上いたしました。

2. 特別損失の発生及びその内容

(1) 減損損失

当第4四半期会計期間において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスになると見込まれる店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額した当該減少額6,221千円を「減損損失」として特別損失に計上いたしました。

その結果、当事業年度において28,679千円を計上いたしました。

(2) 休業手当

当第4四半期会計期間において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置として実施しました店舗休業に伴い支給しました休業手当 116,092 千円を「休業手当」として特別損失に計上いたしました。

その結果、当事業年度において 306,996 千円を計上いたしました。

3. 2022年3月期業績と前期実績の差異について

2022年3月期業績と前期実績の差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|-------|--------|------|--------|----------------|
| 前期実績 (A) | 2,767 | △989 | △775 | △1,054 | △186円06銭 |
| 当期実績 (B) | 2,160 | △1,121 | △289 | △391 | △68円96銭 |
| 増減額 (B-A) | △606 | △131 | — | — | — |
| 増減率 (%) | △21.9 | — | — | — | — |

（当期業績と前期実績の差異の理由）

当事業年度におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増加と減少を繰り返し推移する状況のなか、当社の属する飲食業は感染拡大防止への協力として店舗休業や時間短縮営業を実施してまいりました。また、当該感染症の感染拡大に伴い、飲食需要自体も著しく低下いたしました。

そのような状況のなか、当社におきましても、社会的要請への協力として店舗休業及び時間短縮営業を実施してまいりました。営業再開時には、お客様及び従業員の感染リスクを最小とする施策を講じたうえでの営業に加え、テイクアウト及びデリバリーに食事メニューを強化して、売上高の確保に努めてまいりました。

しかしながら、飲食需要の低迷に抗するには至らず、売上高は2,160百万円と前期に比べ606百万円の減少となりました。

また、店舗休業に伴う経費削減に加え、雇用調整助成金や休業協力金等の公的な支援も受けてまいりましたが、売上高の減少を補うには至らず、当期純損失は391百万となりました。

以 上